

A—33 味噌汁中の食塩濃度，全窒素量および糖量に関する家系間の比較

I 家系間と日間の差異について（春）

会津短大	○佐原	梶
	飯塚	宣子
	高橋	衛
	後藤	信男

1. 味噌汁の味には地域差があるといわれているが、この場合味噌汁中の食塩濃度，全窒素量，糖量などの成

分にも差があると思われる。同様なことは各家の味噌汁についてもいえるであろう。ある家の味噌汁は他の家のそれよりもいつもからかったりあるいは甘かったりしてそれぞれ「わが家の味噌汁」を形成していると思われる。しかも、長い年月をかけて形成されたこの「味噌汁」は子孫代々にうけつがれていると考えられる。本研究は以上の見地から、血縁関係のある家系を選び出し味噌汁の味つけに関係の深い食塩濃度、全窒素量、糖量についてこれら家系間の比較を行ない、味噌汁の味つけが家系間で差異があるかどうかあるいは季節職業などの環境的な要因により多く支配されているかどうかを類推するために行ったものである。

2. 調査家庭は福島県喜多方市を中心に存在する16家系計91戸である。この中56戸が農家である。各家から本年5月17, 18, 19の3日間味噌汁を採取し、直ちに上記成分を常法に従って測定した。

3. その結果家系間の比較では、食塩濃度、糖量について有意差がみられ、全窒素量では有意差が認められなかった。また日日による変動はいずれの成分についても認められず、この3日間に関する限りどの家庭も毎日同じ食塩濃度、全窒素量、糖量の味噌汁を摂取していることがわかった。家系×日日の交互作用はいずれの成分についても認められなかった。